

読者の皆さんから届いたお便りなどを紹介します



自主防災組織での取り組みを発表

11月10日と11日に行われた、市と「災害時相互応援協定」を締結している福島県相馬市への訪問。下原・砂古自主防災組織からは2人が参加しました。復興状況の視察や消防団・自主防災組織との意見交換など、充実した2日間を感じたのは、復興は5年間で随分進んでも、風評被害を含む放射能被害がいまだにあること、建物は一見建て直されていても、心の立て直しはどのくらいだろうか、ということでした。

組織活動の原点について大いに考えさせられました。私たちが乗り越えなければならぬ大きなハードルは、今年度の総社市防災標語最優秀賞作品で示されています。「こわいの、災害来ない、その油断」。自主防災組織を始めて6年目になりました。今回の貴重な経験を生かし、できることから、仲間と一緒に取り組み続けたいです。
（下原・砂古自主防災組織 川田一馬さん・下原）



ヒイゴ池湿地の観察会で、湿地の生態系や保全について学ぶ

総社北小学校6年生は、総合的な学習の時間に「ヒイゴ池湿地」の保存運動について学んでいます。

平成14年に発生した湯水が原因で、翌年にヒイゴ池湿地の象徴的な生き物である「ハツチヨウトンボ」が激減しました。そこで当時の6年生が中心となり、湿地に水を補給するポンプを設置する資金を集めるため、アルミ缶回収を地域に呼び掛けるなどの活動を実施

施しました。それから毎年、6年生がヒイゴ池湿地から自然保護の大切さを学び、保護活動をする「北の吉備路保全協会」へ寄付を続けています。これまでの寄付は、ポンプをはじめ、湿地や昆虫、植物の紹介看板などの設置や、湿地の保護に役立てられています。これらの活動が評価され、12月18日には「環境おかやま大賞」を受賞しました。

総社北小学校卒業生たちのこれまでの活動に誇りを持ち、これからもこの活動を引き継いで、自然保護の大切さを伝え続けていきます。（総社北小学校6年生一回）

「そうじゃ消防署カレー」、「赤米がゆ」が当たる

広報クイズ

今月の『広報そうじゃ』を読んで、次のクイズに答えてください。

Q1 今年度の総社市防災標語最優秀賞作品は「こわいの」は●●●●●●●●●●。いざというときに後悔しないよう、日ごろの備えに努めましょう。
【応募方法】 はがきかメールに答えと住所、氏名、電話番号、市政や広報紙に対するご意見やご要望を明記のうえ、編集室へ。正解者のなかから2人に「そうじゃ消防署カレー」2個、「赤米がゆ」1個をセットで贈ります。いただいた意見などは、担当課から連絡することがあります。

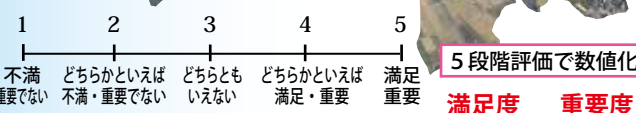


【応募期限】 1月31日(火)
【11月号の答え】 人生設計所
【11月号の当選者】 小野幸恵さん(八代)、森安愛子さん(清音三因)

【応募先】 〒719-1192 中央一丁目1番1号 総社市役所市政情報課 ☒ shisei@city.soja.okayama.jp

【応募総数 19件】

**第2次総社市総合計画
評価・検証のための
市民満足度調査
結果**



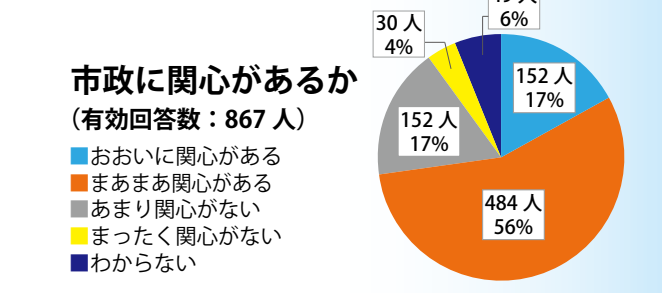
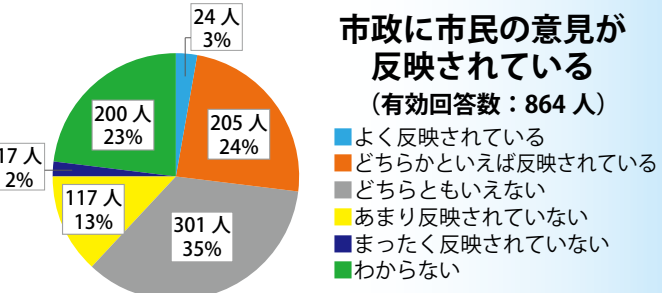
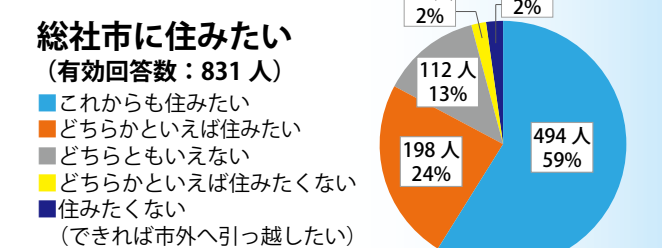
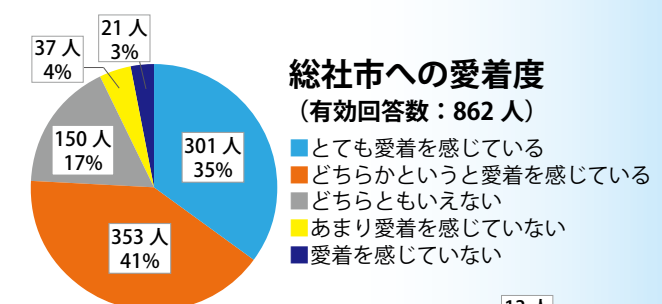
項目	満足度	重要度
1) だれもが住みたくなる総社	3.4	4.3
1 子育て 「子育て王国そうじゃ」をさらに進める	3.5	4.5
2 社会保障 いつまでも総社で安心して暮らす	3.2	4.5
3 住宅・生活基盤 総社に住み続けたい	3.5	4.4
4 移住・定住促進 魅力ある総社に住んでもらう	3.4	4.0
5 防災・消防 総社を大地震時の支援拠点にする	3.3	4.2
2) だれもが働きたくなる総社	3.2	4.2
1 雇用 総社で「働きたい」「雇用したい」を応援する	3.2	4.3
2 農林業 総社の農林業を元気にする	3.1	4.0
3 商工業・物流 総社の企業・起業を応援する	3.3	4.2
3) だれもが学びたくなる総社	3.3	4.3
1 学校・幼児教育 だれもが行きたくなる学校をつくる	3.4	4.5
2 家庭教育 家庭や地域の学びを応援する	3.3	4.3
3 スポーツ・文化・生涯学習 総社で生涯学び、スポーツなどをする	3.3	4.1
4) だれもが訪れたくなる総社	3.2	4.2
1 観光 総社の魅力を全国発信する	3.1	4.2
2 都市・社会基盤 地域の実情に応じた土地活用と都市基盤の整備	3.0	4.1
3 自然・環境 美しい総社を未来へつなげる	3.4	4.2
5) だれもが集いたくなる総社	3.1	4.0
1 市民参加 市民みんなで総社を創る	3.2	4.0
2 広域連携 岡山・倉敷などと連動する	3.1	4.0
3 市役所 市役所を改革する	3.0	4.0

市では、第2次総社市総合計画の評価と検証を行うため、8月1日から31日にかけて、無作為に抽出した18歳から75歳までの市民2000人を対象に市民アンケートを実施しました。

回答は、郵送とインターネットで受け付け。882人から回答があり、回答率は44.1%でした。

主な回答は下のとおりです。広報紙に掲載しきれなかったものについては、市ホームページに掲載しています。

問い合わせ 政策調整課 ☎8213



総合計画の基本計画である、「だれもが住みたくなる総社」、「だれもが働きたくなる総社」、「だれもが学びたくなる総社」、「だれもが訪れたくなる総社」、「だれもが集いたくなる総社」についての調査結果は、上のとおりでした。特に、子育てや学校教育など、子どもに関する分野の重要度が高い傾向がみられます。

総社市に愛着を感じている人は「とても愛着を感じている」と「どちらかという愛着を感じて

いる」を合わせると76%。また、総社市に住みたいと思っている人は「これからも住みたい」と「どちらかといえば住みたい」を合わせると83%。市政に関心があると答えた人は「おおいに関心がある」と「まあまあ関心がある」人を合わせて73%でした。これらの項目については、高齢者層で高く、若年層が低い傾向であることも分かりました。

今回の調査結果を総合計画に反映させ、よりよい総社市を目指していきます。